

2021.12.19

ニリンソウ自生地保護活動情報

赤塚公園ニリンソウを守る会

akatsukanironso@gmail.com
赤塚公園サービスセンター
03-3938-5715
編集責任：運営サポーター／木村
090-8646-9757



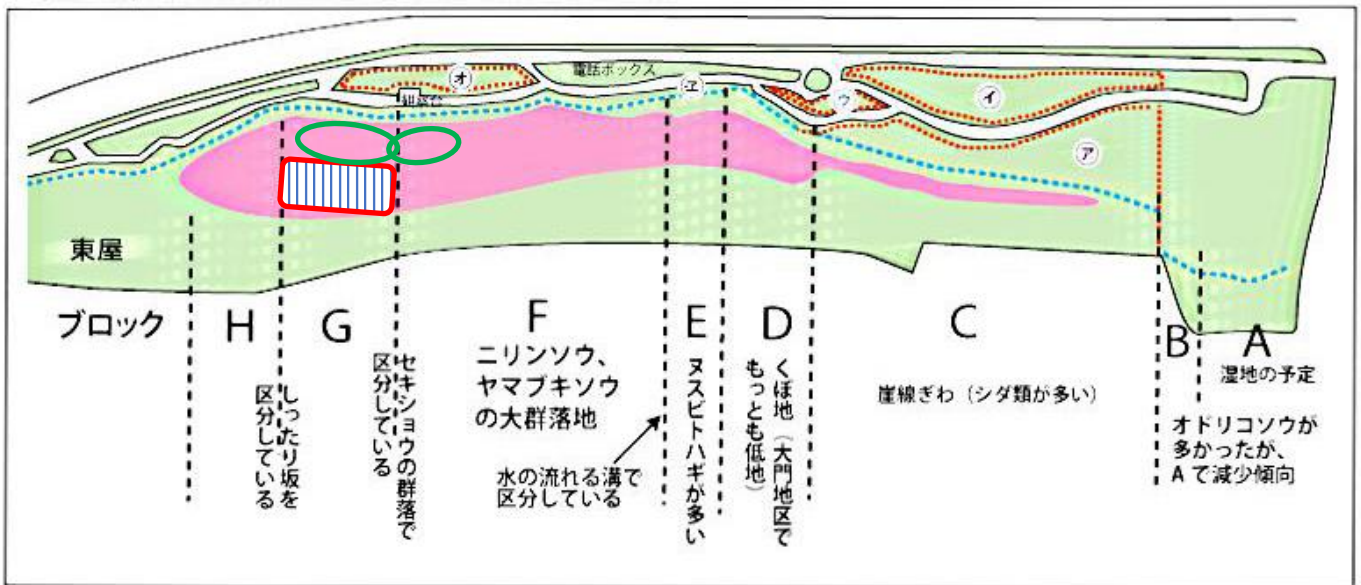
赤塚公園ニリンソウを守る会

- ◆新年の活動始めは1/16（日）八丁目の林の手入れ ため池公園梅林下集合 10:00
- ◆2月は2/20（日）ヤエムグラの抜き取り 大門観察台 10:00

◆ニリンソウ月間＝予定・準備中 3/19（土）～4/17（日）

★手伝ってください！ 誰でも参加できます！
飛入り参加も歓迎！

ニリンソウ自生地 2021年の手入れ作業終了 ありがとうございました！



12/19の手入れ作業は、Gブロック（赤枠）をボランティアによる手作業で、擬木柵寄り（緑枠）をサービスセンターによる機械刈りで行いました。刈り取らない植物については事前に赤い紐やリボンでマーキングしておきました。今年は10月から手作業6回、機械刈り3回を行いました。天候に恵まれ、けが人もなく無事終了。ボランティアの皆さんの作業は丁寧で、せっせと

作業に取り組む姿は感動的でした。

手入れの効果が現れるのは、春のニリンソウシーズン。さて、どうなるのか？楽しみです。



すっきりしたニリンソウ自生地



上の写真左=Dブロックのくぼ地。写真中=Fブロックのニリンソウのメインステージ。紐で囲んだところは刈り取らないで残す植物の一つイヌショウマの群落です。写真右=Gブロックのいちばん西側。しったり坂下の小橋のところはキズタとアケビが地面を覆っていましたが、ここも手作業で抜き取りを行いました。

手刈りで行う部分と機械刈りで効率よく草刈りする部分のバランス

東京都による生物多様性保全事業は赤塚公園の武蔵野台地産線の各所で落葉樹林や草原の復活に取り組み中ですが、大門地区においては従来の擬木柵を後退させて草原エリアを拡大したり、これまで人が自由に立ち入ることができた場所にもロープ柵を張って草原を育成するエリアをつくっています。そのことによって手入れ対象の面積が2年前よりも増えてきているのですが、手入れの担い手であるボランティア活動者は高齢化して活動力は低下傾向にあります。「ボランティア体験講座」を開くなどボランティア活動者の数を増やす努力を行っているのですが、それでも足りません。そこで、昨年からはサービスセンターも大門自生地の手入れ活動を支援することとなり、機械による草刈りを始めました。

大門自生地にはニリンソウのほかにも何種類もの（東京都指定の）絶滅危惧種植物が生育しているほか希少な植物がたくさんあります。草刈り機による除草作業は特定の植物だけを残して刈る選択的草刈りには適していないので、手入れ作業はどうしても人の手による選択的草刈りをメインに行うことになるのですが、それでも機械刈りによる効率化は必要であることが、この2年間の経験ではっきりしてきました。（右の写真は残すためにマーキングしたノシラン）



その年、その場所で、「幅のある草刈り」によって多様性を保つ



ニリンソウのメインステージ付近の草刈り後の状態を見てみると、マーキング箇所以外にもみどりのかたまりが残っています。主にナガバジャノヒゲ（写真左）ですが、赤塚公園でしか見られない野草です。今年は残しましたが、あまり繁殖しすぎると他の野草の生育の妨げになります。来年の手入れではこの草をコントロールする必要が出てきそうです。また、マンリョウ（写真右）は常緑樹ですがきれいな実を付けているのを見つけると残したいと思うのが人情。刈り取る人によって残したり刈り取ったりの多様な選択の余地を残しておけば生物多様性も保たれるので、来年以降の手入れ作業も工夫を続けていきます。

<<<<2022年も引き続きご協力、ご理解お願いいたします>>>>